



齋藤帆奈 + 吉岡裕記 <Time-poiesis> (2013-)

作者のことは

“Time-poiesis”は、「3Dプリンターを用いて樹脂を積層することによって複雑な立体を出力するメディア」の特性を活かし、時間変化を物理的な造形として現前させる試みである。

<http://timepoiesis-jpn.tumblr.com/>

生物の動きと成長をとらえた定点映像の時間軸を高さに変換したデータを3Dプリンターで出力し、彫刻作品とした。使用した映像は、それぞれの生物の研究者から提供してもらったものである。結晶や地層、生物の発生など、時間変化は形態形成に深く関わりをもつ。我々の持つ時間概念は、全ての物質を通り過ぎて進むようなイメージを伴っているが、むしろそういった概念の方こそ、多様な生命や物質の刻む時間を我々自身の身体を通して解釈、総合したものではないか。科学研究に用いられる定点映像は、二次元のデータとして扱うことが可能であり、複雑な自然環境下より情報量が少なく、分析するのに好都合な状態だ。このデータを、異なるテクノロジーを用いた手続きによって再び身体化する。そこには、元の自然とは別の自然の形態が立ち現れる。(映像協力：ミナミコメツキガニ *Mictyris guinotae* 西山雄大 (阪大)、モジホコリ *Physarum polycephalum* 山千代真規 (神大)、クロヤマアリ *Formica japonica* 久本峻平 (早大)、キンギョ *Carassius auratus* 石橋友也 (早大)、シアノバクテリア *Pseudanabaena* sp. ILC 545 東海林祐 (早大))

齋藤帆奈

理化学ガラスの制作技法によるガラス造形や、生物、有機物等を用いて立体作品を制作。主なテーマは、我々自身が有機体であることが、表現と認識を可能にしているという考えのもと、「自然」と「生命」を表現すること、表現するとはなにか、ということ考えたときの科学と芸術、技術/テクノロジーの関係性。早稲田大学招聘尾研究員 (metaPhorest)

<http://metaphorest.net/residents/artists/976>

吉岡裕記

アーティスト/バイオデザイナー。2011年にLAMBDAプロジェクトを開始し、情報伝達とバイオテクノロジーの関わりをテーマに様々なジャンルのアーティスト、デザイナー、研究者とのコラボレーションを行っている。近年のプロジェクトでは、「非生物(鉱物)に生命性を見出す」ことをテーマに制作された映像作品《Revital HgS》や、「時間変化を物理的な造形とする」ことを試みた彫刻作品《Time-Poiesis》シリーズなどがある。2014年からアーティストック・リサーチ・フレームワークBCLのメンバーとしても活動している。早稲田大学招聘研究員 (metaPhorest)

<http://yukiyoshioka.org/>

<http://bcl.io/>